

南風便り



No.36

2013 WINTER

地域と南風病院を結ぶ



News 総合受付・3階西病棟・外来診察室 リニューアル

特集

南風病院の内科・循環器内科	2~3
がん診療運営委員会設置	4~5

CONTENTS

シリーズがん 病理診断科について	6
シリーズ 地域で支える 鹿児島市川上町 盛満医院	7

内科・循環器内科

— 高齢者の心不全・肺炎など、

地域から求められる内科疾患に対応したい —

清永 和明 主任部長に内科・循環器内科診療体制や内容、在宅医の先生方との連携について話を聞きました



清永 和明

循環器内科 主任部長
日本内科学会認定医
日本循環器学会専門医
鹿児島大学医学部臨床教授

『心不全・不整脈を中心とした循環器診療』

当科は、「内科」と「循環器内科」として診療を行っています。現在は、【循環器】清永・今村・久保・瀨田【糖尿病】政・中崎の計6名体制で、それぞれの専門領域と一般内科については全員で診療にあたっています。

診療内容は、循環器内科では心カテ、冠動脈インターベンションを行っていないこともあり、不整脈、心不全、静脈血栓症などの治療が中心となっています。観血的治療としては、ペースメーカー埋め込み術や下大静脈フィルター留置術を行っています。心筋梗塞や狭心症でPCIが必要な場合には鹿児島医療

センターや中央病院と連携を取って対応しています。また、第一線病院という性格上循環器疾患を持つ他科症例（特に手術症例や透析症例）へのサポートにも力を入れています。

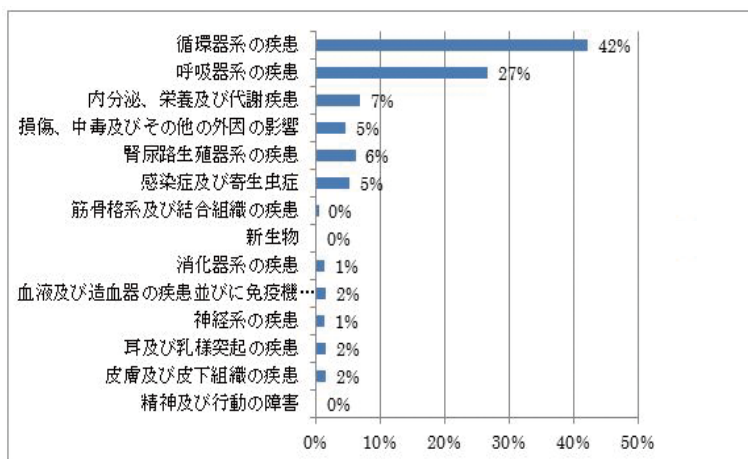


図1 (平成24年度内科・循環器内科 入院患者 ICD10 大分類)

最近では、地域の先生方から高齢者の心不全は循環器専門病院には頼みづらいとお話を聞き、当科では必ず受入れを行っています。確かに高齢者の心不全は、重症化し入院が長引き治療に難渋するケースもあります。在宅医の先生方を支援する地域支援病院の役割として今後に対応していきたいと思っています。

『在宅医の先生方からの要望にできる限り対応したい』

先ほどお話したように当科は循環器疾患と糖尿病を主体とした診療科ですが、地域の先生方との連携を進める中で、高齢者の発熱や食思低下など診断がはつきりしていない状況での入院依頼も多くなっています。地域の先生方が診ておられる外来患者や介護施設や在宅での訪問診療では、症状が強くなった場合に検査や治療を継続するにも限界があると思います。特に入院施設を持たない開業医の先生

としては「とにかく入院を」というお気持ちだと思っています。当科ではそのような地域の先生方からの要望に応え、肺炎や感染症など自身の専門診療科以外もできる限り対応しております。図1を見て分かるように特に高齢者の肺炎は入院依頼が多く、呼吸器内科に相談をしながら診療を行っています。

当科でお受けして、他科や他院に紹介するケースもあると思いますが、できる限り在宅医の先生方の要望には対応いたしますので、まずはご相談ください。



左上から 久保部長 政部長 中崎部長 清永主任部長
左下から 今村部長 濱田科長 久保部長

インスリン治療の連携を進めたい

平成25年7月より内科部長として就任された中崎満浩先生に専門分野やこれからの診療体制について話を聞きました

当科の糖尿病・内分泌の診療は長年、政先生が一人で診療を担当しておりました。この度、私に加わり2名体制となりましたので、今まで対応が難しかった糖尿病患者の緊急入院や教育入院も可能となっています。また、外科、整形外科での術前の血糖コントロールにもこれまで以上に迅速に対応が可能となりました。

今まで内服治療の患者さんは地域の先生方へご紹介を行ってききましたが、インスリン治療の方の連携が進んでおりませんでした。今後は、当院でインスリン治療を導入した患者さんに対して、看護師・薬剤師・栄養士と共同でバックアップ体制を整え、地域連携パス等も活用して地域の先生方と共同で診療を行

う体制を整備してまいりたいと思います。

中崎 満浩(なかざき みつひろ)

昭和63年熊本大学医学部卒、鹿児島大学一内科入局し糖尿病・内分泌を専門に研究、治療に従事。アメリカペイラー大学で2年半インスリン分泌に関する基礎研究に携わる。日本大学医学部糖尿病・代謝内科を経て平成25年7月南風病院入職。

日本内科学会認定内科医

日本糖尿病学会専門医、研修指導医

日本内分泌学会内分泌代謝科専門医、指導医



良質ながん医療の提供に向け、 がん診療運営委員会を設置

平成25年7月にがん診療運営委員会を南風病院内に設置しました。この専門委員会は、がん診療に関わる部門の代表者で構成された組織です。委員長には末永副院長が選任され、質の高いがん診療の提供に向け、新たな取り組みがスタートしました。

今回は、がん診療運営委員会の委員長となった末永副院長に、がん医療の提供に向けた南風病院の姿勢について話を聞きました。

身近な地域で質の高いがん医療を提供するために、医療連携は欠かせない

がん医療を必要とする患者は以前にも増して、多様となっています。これは医療技術の進展にともない治療の選択肢が増えたこと、患者やその家族の意向が大きく尊重され始めたことが背景にあります。これからは今までのような入院中心の医療だけでなく、積極的な治療を終えた患者や働きながら治療を行う患者など、生活の場を主体とした医療提供が求められます。

それぞれの地域においても、質の高いがん医療を継続的に提供していくためには、役割を意識した医療連携は欠かせません。鹿児島県のがん診療指定病院である当院のような施設では、入院を必要とする治療や集学的な治療の提供を行い、地域の病院や在宅医療を提供する施設では、退院患者のフォローアップと日常的な管理を担ってもらう。この医療連携によって、継ぎ目のない良質な医療提供が可能になると考えています。

表1 5大がんの退院患者数

九州圏 286施設中	件数
1 福岡 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	3374
2 福岡 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	2792
3 福岡 九州大学病院	2583
4 長崎 (総)佐世保市立総合病院	2245
5 福岡 久留米大学病院	2226
6 福岡 北九州市立医療センター	2171
7 熊本 熊本大学医学部附属病院	2026
8 長崎 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	1992
9 福岡 飯塚病院	1865
10 長崎 長崎大学病院	1829
11 鹿児島 公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院	1797
12 福岡 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院	1759
13 福岡 製鉄記念八幡病院	1702
14 福岡 九州厚生年金病院	1618
15 福岡 産業医科大学病院	1567
16 福岡 福岡大学病院	1553
17 福岡 独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター	1503
18 熊本 済生会熊本病院	1446
19 鹿児島 相良病院	1411
20 大分 大分県厚生連鶴見病院	1355



末永 豊邦

副院長／外科主任部長
がん診療運営委員会委員長

表3 大腸がん手術症例（再掲）

九州圏 286施設中	件数
1 大分 大分県厚生連鶴見病院	765
2 福岡 九州大学病院	332
3 長崎 長崎大学病院	254
4 鹿児島 公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院	253
5 長崎 (総)佐世保市立総合病院	253
6 福岡 九州厚生年金病院	247
7 大分 大分赤十字病院	217
8 長崎 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター	211
9 福岡 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	197
10 福岡 北九州市立医療センター	191

表2 胃がん手術症例（再掲）

九州圏 286施設中	件数
1 熊本 済生会熊本病院	292
2 福岡 九州大学病院	267
3 福岡 北九州市立医療センター	241
4 長崎 長崎大学病院	226
5 福岡 九州厚生年金病院	208
6 鹿児島 公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院	198
7 熊本 熊本赤十字病院	195
8 福岡 独立行政法人国立病院機構 九州医療センター	194
9 福岡 飯塚病院	179
10 福岡 久留米大学病院	174

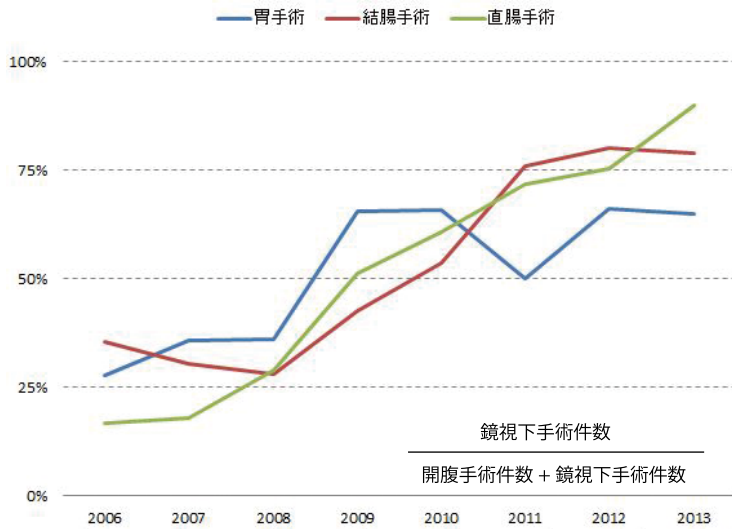


図1 鏡視下手術割合の年次推移

厚生労働省が公表した平成25年度のDPC公開データによれば、5大がん（肺・胃・大腸・肝・乳がん）の退院患者数は九州圏で上位に位置していました（表1）。入院患者のほとんどは紹介患者であることから、鹿児島県においても連携を主体としたがん診療の集約が進んできていると解釈しています。特に胃がん手術症例（表2）や大腸がん手術症例（表3）については、より顕著な結果となりました。

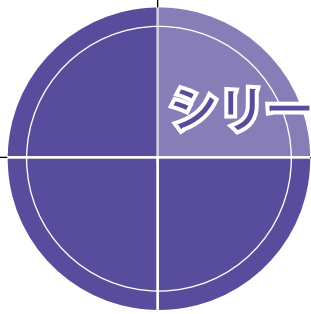
医療連携を主体としたがん医療の診療集約

鹿児島県がん診療指定病院として、さらなる診療体制の充実に努める

当院では、がん医療にかかる診療体制の充実を進めています。内科医と外科医の他にも病理診断や放射線診断に携わる医師、またがん以外の疾患を専門とする診療科の医師などと協力して、集学的治療の提供を行っています。手術療法に同じようなことがいえます。手術療法の提供にあたっては、内視鏡的手術や鏡視下手術、開腹手術など状況に応じた手術を適切に提供できる体制にあります。近年では侵襲性の低い鏡視下手術の実施割合が多くを占めるようになってきました（図1）。また状況によって、かかりつけの紹介医や地域の専門医との共同手術も積極的に実施しています。

がん診療指定病院では、手術療法以外にも病理診断や放射線診断、化学療法、緩和ケアなど、それぞれ質の高い内容が求められています。当院ではこのニーズにしっかりと応えていくとともに、身近な地域で質の高いがん医療が受けられるよう地域との医療連携もこれまで以上に進めていきたいと考えています。

※1 DPC 公開データについては、平成25年度第7回診療報酬専門組織・DPC 評価分科会の公表データにもとづき制作
 ※2 <がん診療運営委員会の委員構成>
 外科主任部長、消化器病センター所長、消化器内科部長、肝臓内科主任部長、呼吸器内科主任部長、がん化学療法部長、緩和ケア内科部長、放射線科部長、病理部部長、がん薬物療法認定薬剤師、がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、栄養科長、医療連携・相談支援室主任、臨床研修支援室室長補佐、健診課課長、総務部長 合計17名



シリーズ **がん**

南風病院の実績

病理診断科について

病理科は従来、病理、病理学、外科病理などの名称で呼ばれていましたが、平成 20 年 4 月 1 日からは厚生労働省通知により診療科の一つとして標榜（病理診断科）が出来るようになりました。

病理診断科は臨床各科と強く関連する実践医学の場であり、疾病の形態や原因を詳しくしらべ、診断、治療への指針を示す重要な役割を担う部門の一つです。

病理診断とは病気に犯された部位（病変部）を顕微鏡で観察（検鏡）し、その程度や状態等を明確に判定することです。病理医の診断が可能（検鏡）となるまでには、臨床検査技師による幾多の手順と時間を要します（標本作製）。病変部は、全身の諸臓器から採取された細胞（喀痰、尿）、生検組織（針生検、内視鏡）、切除臓器（内視鏡的、外科的）等の標本からなります。大きな標本は肉眼像をカラー写真に保存、コルク板に臓器を伸展、展開してホルマリン液の容器に入れて固定します（48 時間）。小さい生検組織標本は直ちにホルマリン液で固定します（24 時間）。細胞はスライドガラスに塗抹して固定、染色後、早急に細胞検査士による検鏡を行い、異常細胞が見つければ病理医のチェックを受けて臨床へ報告となります。小さなホルマリン固定標本はパラフィン包埋、厚さ 3～4 ミクロンの薄切ガラス組織標本として染色（ヘマトキシリン・エオジン染色）します。大きな標本は病変部を含めて一定の大きさ（カセット容器）に細切した後、パラフィン包埋、薄切ガラス組織標本にして染色します。最後に病理医の顕微鏡的組織診断（検鏡）の結果が臨床医へ報告されます。



田中 貞夫 病理診断科 部長

病理解剖例に関しては、鹿児島大学病理学教室のご協力により臨床病理検討会（CPC : Clinical Pathological Conference）を当院アネックス 2 階で行っています。

学術的には研究論文の共著、国内外での共演があります（研究業績集に記載）。

当院は日本病理学会研修登録施設の認定も受けております。

南風病院は「がんの診断、治療」を新たなテーマとしてスタートしました。病理診断科も消化管病理、とりわけ胃腸管病変（胃癌、大腸癌）や肝臓、胆嚢、胆管、膵臓の腫瘍性病変、及び諸種の病変に対して緻密な組織学的検索（免疫組織学的検査等）を行っています。

今後は「病理」って何をするとところなの？というような疑問、質問にもお答え出来るように地域医療活動の一つとして、より分かり易い勉強会等も考えて行きたいと思っています。

病理組織・細胞診検体数

	2010 年	2011 年	2012 年
生検・粘膜切除組織検体数	3257	3203	3129
外科的切除検体数	465	485	551
術中迅速検体数	124	121	105
細胞診検体数	866	1053	1069
病理解剖数	2	4	4



左下：田中部長 右下：政記念消化器病研究所 西俣所長

南風病院では地域の先生方との連携による医療の提供「連携医療」を推進しています。
今回は、鹿児島市川上町の盛満医院 盛満憲生先生にお話を聞きました。

その人に合った診療方針を立て、 そして継続的に診ていく

Q 盛満医院について教えてください。

当院は昭和44年に私の父が開院し、平成6年（盛満院長31歳）に私が継承いたしました。現在の診療内容としては、外来ではかかりつけ医として高血圧や糖尿病など生活習慣病の管理、そして、上部・下部の内視鏡検査を含めて消化器疾患への診療を行っています。また、父の代から長年この地で診療をさせていただいていますので、患者さんもお高齢になり通院が難しくなった方もいます。そのための平日の午後に訪問診療の時間を設けて、継続的に診ていける体制を整えています。



盛満医院
盛満憲生先生

Q 南風病院との連携はどのようなものでしょうか？

私は、鹿児島大学二内科に入局していたこともあり、南風病院消化器病センターには短期間ですが勤務していました。その頃からの顔見知りの先生が消化器内科には多いのでその点では連携が取りやすい関係にあると思います。具体的な連携としては、当院で行った消化器検査等で異常がある場合に南風病院の消化器内科の先生にお願いすることが多いです。また最近では、患者さんのお高齢化もあり認知症が疑われる方の物忘れ外来（脳神経外科）や心不全や肺炎などで内科・循環器内科の先生に紹介することが多くなりました。訪問診療でも、訪問看護ステーションみなみ風とは密な連携を取っています。その他、南風病院に紹介して入院となった患者さんはできるだけ開放型システムを用いて、共同診療を行うようにしています。

Q 先生の診療のモットーや理念、これからの南風病院との連携について教えてください。

私は診療のモットーや理念などは特別に掲げてはいません。ただ「目の前の患者さんをしっかりと診る」ということだけです。その人にあった診療方針を立て、そして継続的に診ていく。高度医療が必要な時には間違いなく、スピーディーに専門機関へ繋ぐ。これだけです。南風病院にはその中で患者さんにとって必要な検査や治療を提供していただきたいと思っています。



盛満医院 〒892-0875
鹿児島市川上町 3444-1
TEL 099-243-0581 FAX 099-243-7219
診療科：内科 消化器科 小児科 神経科

外来担当表

H25.12.01

受付 AM8 ~ 11 / PM1 ~ 4		月	火	水	木	金	土
午前	内科	政 昌子 中崎 満浩 ※糖尿病・内分泌(下垂体・甲状腺・副腎)	政 昌子 ★山元 聖明	中崎 満浩	政 昌子	政 昌子 ★橋口 裕	
	循環器内科	清永 和明 濱田 成郷	久保 忠弘 濱田 成郷	清永 和明 今村 正和	清永 和明 (第3木曜休診) 久保 忠弘	清永 和明 今村 正和	交代制
	呼吸器内科	★山口 昭彦	坂木 由宗	★山口 昭彦	三山 英夫	★山口 昭彦	※緊急時はお問い合わせください
	腎臓内科	内田 義男	福元 まゆみ	猪俣 美穂 吉嶺 陽仁	内田 義男	曾我部 篤史	
	肝臓内科	迫 勝巳	小森園 康二	処置日	迫 勝巳	小森園 康二	
	外科 消化器外科	末永 豊邦	北菌 正樹	末永 豊邦	末永 豊邦	交代制	
	脳神経外科	楠元 和博	頭痛外来 もの忘れ外来 横山 俊一	頭痛外来 もの忘れ外来 横山 俊一	楠元 和博	頭痛外来 もの忘れ外来 横山 俊一	
	神経内科	ふるえ外来 梅原 藤雄	しびれ外来 梅原 藤雄	梅原 藤雄	池上 眞由美	しびれ外来 梅原 藤雄	
	整形外科	★川内 義久 吉野 伸司	★鮫島 浩司 富村 奈津子	吉野 伸司 瀬戸山 傑	久保田 恭 川畑 英之	★川内 義久 ★鮫島 浩司	
	放射線科 (PET・CT・MRI・RI)	★ 加治屋 より子	★ 加治屋 より子	★ 加治屋 より子	★ 加治屋 より子	★ 加治屋 より子	
消化器内科	新原 亨 西俣 / 岩木	田代 光太郎 豊田 真理	仁王 辰幸 西俣 伸亮	島岡 俊治 岩木 宏介	松田 彰郎		
午後	呼吸器内科				禁煙外来 ★山口 昭彦	梅原 恵	
	循環器内科 (^ハ -スメ-カ)				清永 和明 (第3木曜)		
	肝臓内科			柴藤 俊彦			
	^ハ インクニック 内科	★益山 隆志		★益山 隆志 (初診日)	★益山 隆志	★益山 隆志	
	整形外科	小児整形 ★吉野 伸司	★鮫島 浩司	創傷外来 ★富村 奈津子		★川内 義久	

★…完全予約制となっております。ご予約のない方は他院へご紹介することがございます。

■外来診療予約窓口 直通TEL: 099-805-2259

■画像診断センター 直通TEL: 0120-332-411 直通FAX: 0120-332-967

■医療連携・相談支援室 直通TEL: 099-805-2732 直通FAX: 0120-707-142

理念 人にやさしく、あたたかく

基本方針

- 1 医療を通して地域社会に貢献する
- 2 患者さま本位の診療を行う
- 3 最新の医療の提供に努める
- 4 活力に満ち、働きがいのある職場を目指す
- 5 病院として健全な発展を続ける



公益社団法人鹿児島共済会 南風病院

〒892-8512 鹿児島市長田町 14 番 3 号

TEL 099-226-9111

FAX 099-223-1573

URL <http://www.nanpuh.or.jp/>